

購読の申し込みは
日本医労連へ
購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)
送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替00160-6-84866
ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
電子メール n-ask@irouren.or.jp

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

第1651号 2016年8月11日
編集・発行
日本医療労働組合連合会
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
日本医療労働会館3階 TEL03(3875)5871
発行 毎月2・4木曜日
(昭和36年9月15日)
(第三種郵便物認可)

日本医労連 第66回定期大会

平和・憲法・社会 保障まもる正念場 たたかう決意 がためあう

7月25日～27日 群馬・安中市



8年連続の増勢で大会むかえる 組織拡大強化3ヶ年計画も決定

日本医労連は、7月25日～27日にかけて、群馬県安中市において第66回定期大会を開催しました。8年連続の増勢でむかえた定期大会には、7全国組合47都道府県医労連から代議員180名、全体で301名が参加しました。2016年度運動方針と第9次組織拡大強化3ヶ年計画などについて、一年の運動をもとに活発な討論が行なわれました。また、2016年度の運動を進めるための執行部体制、産別スト権も確立しました。

改憲策動阻止しよう

第66回定期大会は、森田しのぶ中央副執行委員長長の開会あいさつで始まり、最初に議長団と大会役員の選出を行ないました。

主催者あいさつにたった中野千香子中央執行委員長は、「8年連続で増勢となった。要求前進にむけて、20万医労連めざそう。参院選後、安倍政権はさっそうと改憲策動を開始し、暴走も再開した。一方で市民と野党の共闘は、大きな希望を生み出している。引き続き、改憲発議阻止のためにも職場から地域から運動を広げよう」と呼びかけました。

来賓の全労連・小田川義和議長、福祉保育労・澤村直書記長、日本共産党・梅村さえこ衆議院議員から激励のあいさつを受け、続いて、医労連、日本看護協会、ILO(国際労働機関)からのメッセージ紹介も行なわれました。その後、争議支援の訴えが、JAL争議団・山口宏弥団長からありました。

運動方針・組織拡大3ヶ年計画提案

決算報告・会計監査報告の承認の後、第1号議案「2016年度運動方針」が提案されました。

方針提案した三浦宣子書記長は、『改憲勢力が3分の2



の議席を確保したことは軽視できないが、市民と野党の共闘で政治は変えられるという展望をひらいた。2018年末までに衆院選があるため、この1、2年が憲法・平和を守り、政治を変える正念場。政治を変えて、いのち・人権・社会保障をまもり、職場の改善が実感でき、展望を切り開くための意思統一する」として、①憲法と平和、社会保障の課題、②人間らしく生き働ける賃金・労働条件の課題、③組織拡大の課題の3つを柱に提案しました。

続いて、温井伸二書記次長から第2号議案「第9次組織拡大強化3ヶ年計画」の提案が行なわれました。

**方針豊かにする
討論57本**

1号議案・2号議案の討論

第66回定期大会は、8年連続の増勢、1002名の純増、17万5611名の組織として迎えることができました。

今大会は第9次組織拡大3ヶ年計画も議論いただきます。医療費抑制・「地域医療構想」が進められる中で、目標達成は簡単ではありませんが、仲間を増やして要求前進をはかるのは労働組合の基本です。

賃金改善・大幅増員も、1職場で頑張るだけでは限界があり、政治課題として取り組

運動を強化する財政確立にむけて討論が行なわれました。採決は、第1号議案(運動方針)は全会一致、第2号議案(組織拡大3ヶ年計画)と第3号議案(予算案)は賛成多数で可決しました。

方針・予算の確立後、医労連共済の事業方針提案や制度改定の予備提案などを吉村得王彦書記次長が行ない、拍手で承認されました。

役員選挙、スト権投票を行ない、大会宣言・特別決議を満場の拍手で承認し、最後に畑中剛喜中央副執行委員長の閉会あいさつ、中野千香子中央執行委員長の団結カンパニーで大会を終りました。



では、戦争法廃止・野党統一でたたかった参院選の取り組み、ベアにこだわった賃金闘争、組織拡大・強化での奮闘など、方針を豊かにする57本の討論が行なわれました。

第3号議案「2016年度予算案」は原英彦中央副執行委員長から提案が行なわれ

大会スローガン

「戦争する国づくり」憲法改悪阻止、
国民のいのちとくらしが
何よりも大切にされる平和な社会をつくろう

運動と組織を躍進させよう

討論
市民・野党との共闘で
憲法改悪ストップ
大幅賃上げ・増員
社会保障の拡充

大会討論は58名の代議員から、各加盟組織の1年間の取り組みや、運動方針を補強する内容の発言が行なわれました。また、情勢を反映して、市民・野党と共同してたたかった戦争法廃止・政治革新の取り組みや今後の決意が多く語られました。発言は討論テーマに沿って紹介します。紙面の都合で発言すべてを紹介できないことをご了承ください。

戦争法廃止・憲法改悪阻止

山形県医労連

高橋元一代議員



戦争法廃止・改悪阻止にむけて、1月の中央委員会でのちと平和を守る大運動」を決定して運動を展開した。2千人署名は職場の取り組みを強化して目標突破した。宣伝ではラジオCMを50本放送。宣伝カーも走らせ世論形成に奮闘した。医労連「団体賛同署名」は議員や諸団体から幅広い賛同を得た。「戦争法廃止を求めるやまがた県民の会」の運動にも参加してきた。引き続き、労働組合の根本的課題として取り組む。

沖縄県医労連

宮里武志代議員



沖縄米軍基地闘争と選挙闘

北海道医労連

南川博行代議員



北海道5区・衆院補欠選は、盤石と言われた保守候補に迫る闘いができた。職場でも憲法を学ぶパンフで討議を進めた。戦争する国は、社会保障を切り捨て、貧困と格差を拡大する。北海道でも影響は顕

山口県医労連

出合仁美代議員



参院選では、「山口から政治を変える」と戦争法廃止や岩国基地機能拡大反対などを訴えた野党統一候補と政策協定してたたかった。結果は現職当選となったが、野党共闘でたたかったことは前進。職場では看護連盟が自民候補ボスターを無断で貼る動きがあったが、組合として処分・撤去を要請した。職場での投票呼びかけでは、これまでは仕事と政治は関係ないと棄権が多かったが、呼びかけを真面目に聞く変化もあった。

医療・介護・社会保障の拡充

青森県医労連

工藤詔隆代議員



子どもの貧困が深刻化し、貧困層を自衛隊が誘うなど、戦争が近づいている。未来をあきらめるわけにいかない。生存権裁判ではまた兵庫を残している。勝てば情勢は変わるが、労働組合は関わりきれていない。裁判勝利のために、医労連もしっかり関わってほしい。日本は71年間戦争を続け、戦後も71年。やっとイ

全JCHO病院労組

金子昌仁代議員



今年4月にJCHOうつのみや病院の買収の動きを把握した。全JCHOでは対策本部をつくり意思統一し、栃木県医労連と連携した緊急集会には120名が集まった。5月の自治会説明会では、自治会長への要請の甲斐があつて売却反対の意見が多く出された。その後、記者会見や地域宣伝、全戸配布チラシなど取り組んだ。反対署名は推進派の3倍、75000筆を集約した。引き続き、売却阻止と地域医療拡充に取り組む。

長野県医労連

傳田泉代議員



特養あずみの里業務上過失致死事件裁判では、入所者が亡くなった一年後、他の入所者に食事介助をしていた職員が在宅起訴された。公判では、検察の杜撰な起訴内容が明ら

全医労

根来純司代議員



静岡富士病院の統合・廃止計画に対して、療養権の実態調査が行なわれ、機構が地域医療や患者・地元の合意形成を無視していることが明らかになった。7月のシンポでは、病院の統廃合が障がい者基本法などに反すること、この地域でも起こることも浮き彫りにされた。一方で、移転先の工事入札が告示され、職員の意向調査も行なわれた。全

宮崎県医労連

和田洋代議員



医労では、機構に対して都労委も活用し団交を実施させてきた。統廃合計画を進めさせず運動する決意。

愛知県医労連

島崎宏行代議員



「必要な医療と介護は国の責任で」署名が、社保協63万筆の到達。同趣旨の署名をあわせて158万筆。この到達は、医療・介護にもっとも近い組織として、ともに取り組んだのかと疑問を感じた。すでに社会保障は破壊されていて、患者の治療中断は深刻。医療を守る活動と生活・権利を守る活動は車の両輪。その片側が外れかかっていないのではない。患者・利用者思いをはせながら、運動することが大切。

全厚労

鈴木裕子代議員



今年1月、埼玉厚生連2病院の事業譲渡が発表された。埼玉厚労は上部団体の力を借り、全員雇用と労働条件の維持、全員の支援に感謝する。

震災復興・原発ゼロ・政治革新

熊本県医労連

中嶋啓子代議員



熊本地震の被災状況について、組合員2300名に調査中だが、34名から返信で、全壊・大規模半壊が3件。また、自ら被災しても、仕事だけで

持にむけ、団交を行なってきた。熊谷支部は、就業規則の維持もでき、退職者も10数名にとどまった。過半数組合として、労使関係も築けている。一方、久喜支部は、労組を受け入れようとせず、退職者も続いている。埼玉厚労は2支部の独立存続を決めた。どういう組合をめざすか、職場で議論したい。支援に感謝したい。

全厚労

茂原宗一代議員



埼玉厚生連の事業譲渡の背景を報告する。政府は、農協がTPPに反対したことで、農協改革を加速させている。農協改革の中で、厚生連は公的医療機関のままとされているが、平成30年までの農協改革集中推進期間で、黒字化が求められている。さらにプロ

今年1月、埼玉厚生連2病院の事業譲渡が発表された。埼玉厚労は上部団体の力を借り、全員雇用と労働条件の維持、全員の支援に感謝する。

熊本地震の被災状況について、組合員2300名に調査中だが、34名から返信で、全壊・大規模半壊が3件。また、自ら被災しても、仕事だけで

鹿児島県医労連

池田勝久代議員



福島県医労連

野地寿子代議員



山形県医労連

渡辺勇仁代議員



川内原発の再稼働で県民が怒り、不安を感じている中、鹿児島県知事選では当初、現職知事も今回の新知事も、原発問題に触れなかった。これに対して、現職4選阻止と川内原発の即時停止で、平良さんを擁立して活動した。その結果、原発問題が争点となった。その後、原発問題を中心に候補一本化で勝利した。初めての選挙戦だったが、労働組合の政治闘争のあり方に工夫がいくと感じた。新知事を支援して運動を大きくしていく。

原発事故から5年。8万人超の県民が避難を続け、原発事故関連死が、地震津波直接死を上回った。安倍政権の「福島復興加速化指針」閣議決定から1年が経過したが、避難指示を解除しても住民は戻らず、損害賠償の値切り打ち切りも強行されている。参院選では、原発廃炉に向けて、統一候補を擁立して現職閣僚に勝利した。原発全機廃炉を掲げる議員2名を送ることができた。東北をはじめ全国の支援に感謝したい。

参院選では、野党統一候補と「政策協定書」を締結して、支援してきた。加盟地場組合には、支持・支援決議、職場への資材手渡し、対話による支持拡大、行動への参加など指示した。公示後は、早朝スタンディング宣伝など奮闘した。野党統一候補は勝利して、労働運動と市民運動の共闘発展は確信につながった。憲法無視の政治を阻止し、人権・雇用・平和を守ることが、労働組合の使命で根本的課題。引き続き奮闘する。

ベースアップで暮らし改善 働く人々の確立を

賃金・労働条件の改善

広島県医労連

石川昇代議員



春闘で一時金大幅削減の回答が提示され、労組員に動揺が走った。職場では「従来型の指名ストでは納得できない」「全面ストをしよう」との意見が多数だった。「全ストやろう」という言葉に鳥肌が立った。1カ月かけて全面ストの準備と交渉での解決に向けた働きかけを進めた。2

京都医労連

坂田政春代議員



生計費原則にもとづいた賃上げ闘争に奮闘してきた。定昇のみや要求を出せなかった

京都の医療・介護労働者の組織率は1割強。賃金相場に影響を与える工夫が必要。青い鳥のたたかいは、8月末に公判。勝利にむけて奮闘したい。

埼玉医労連

清宮浩代議員



ベアにこだわる方針が提起され、ベアにこだわることを意思統一してきた。職場ではベアの暮らしへの影響を理解しておらず、一時金の低額回答には怒るが、ベアがなくても怒らない。私たちはベアなしでは妥協できないと構え、ベアの大切さを周知徹底してきた。民医労では支部交渉も広げて取り組み、5年ぶりに全職種対象の一律500円のベアを勝ち取った。今後の課題は、来年も連続でベアを取ること。賃上げに奮闘する。

長野県医労連

遠山計代議員



関信地方協では、ベア獲得にむけて産別統一闘争の前進に取り組んだ。昨年12月に春闘討論集会を開催し、「賃上げが当たり前」の春闘を取り戻そうと議論を深めた。従来の経営者要請行動だけでなく、単組激励、団交支援を具体化した。重点組合を設定し、力を集中して支援した。長野では15年ぶりに一律ベアを勝ち取った。神奈川では非常勤

の時給改善も勝ち取った。産別統一闘争の再構築と支援員体化で前進につながった。

東京医労連

齋藤康雄代議員



春闘は、4万円要求についてしっかり議論し、スト配置もすっかり準備しすめてきた。統一行動には1692名が参加。民医労働医会支部では10数年ぶりのストの中で要求前進勝ちとった。組織拡大では第7次3か年計画が目標達成できず終了し、2月から第8次計画をスタートし引き続き取り組む。地域医療振興協会の取り組みの3年目。日本医労連は、戦略を持ち丁寧に方針決めてほしい。組織拡大は、現場と一緒にすすめることが大切。引き続き全力で取り組む。

全医労

香月直之代議員



15年4月に非公務員化した。初のスト権投票で、組合員の7割が投票し、9割の賛成でスト権が確立した。労組側にも、人動水準であればよしとする考え方も根強い。労働者らしく、官民共同の闘いにどれだけ魂を込めることができるのか労組に問われる。今年的人事院勧告では扶養手当改善が狙われている。人事院への要請強める。この秋は

①非常勤職員の雇用と労働条件改善、②手術室の労働条件の改善、③民主的な労働関係の構築に取り組む。課題の前進のために奮闘していく。

富山県医労連

大浦義憲代議員



富山大医学部付属病院では、サービス残業に対し2年間週2億を支払った。労基署が調査に入り、電子カルテから実態が判明。附属病院では、この春からタイムカードを設置。本部も設置状況を調査してほしい。新署名の労働環境改善のところに「タイムカードによる勤務時間の管理」を入れてほしい。労働監督官に「医療の現場には『患者さんのため』という魔法の言葉があり、これが厄介を封じる運動の提起をしてほしい。

北海道医労連

三上友衛代議員



はますますくしの里介護ユニオンでは、3階層に分類された非正規の労働条件について、市・社協に賃上げ交渉し、3年越しで前進させた。町民の合意を作り市や社協を追いつめ実現を勝ち取った教訓的な取り組みだった。勤医労では、保育士の低賃金の4号棒引き上げを勝ち取った。団交

に当事者が参加し、涙ながらの訴えに、経営者の心も動かし、改善を勝ち取った。社会的な賃上げ闘争と、職場の団結の結合が大事。

宮城県医労連

新海葉子代議員



仙台市救急医療事業団は、仙台唯一の夜間一次救急の窓口。働く看護師は全員非正規雇用条件は65歳定年のみで、昇給も諸手当もない。平成13年の開設から3年は昇給があったがそれ以降はストップした。再三要求し日給で20・40円昇給、今年はまだストップした。個人で改善要求してきたが、まともな対応はなかった3月に県医労連と出合い、組合結成し、現在はパワハラ訴訟と、労働委員会活用準備をしている。医労連の仲間感謝している。

群馬県医労連

五十嵐弘幸代議員



労働契約法20条をめぐり画期的な判決が出た。しかし職場での定年後の雇用は、生協法人が認めた労働者以外はパートとなる。パートには有給休暇し引き継がれない。組合は抗議してきたが強行されている。昨年末には「退職金を半分減らし、60・65歳の賃金を初任給の1・5倍にする」と提案され、早く合意し

と迫られている。この「同一労働同一賃金」判決を背景に、この判決と同等の再提案をしと申し入れてきた。来年議案には、特筆いただけることを希望。

国共病組

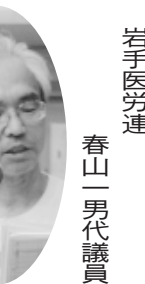
丸山理絵代議員



15年最大の成果は非常勤職員の「5年無期転換」の就業規則変更。当初、「無期転換させる人は病院が選ぶ」という提案に、本人に申し込み権を与えないのかと追及し撤回させた。今年は、子育て支援制度に取り組んでいる。現行3歳未満までの勤務時間短縮を就学前までに拡大と、時間外勤務の免除を要求し、署名に取り組む。組合員の減少が続いている。大会で各支部10名拡大を掲げた。組合活動の見える化していく。ご協力お願いしたい。

岩手医労連

春山一男代議員



医労連の11番目の委員会として「少数者の権利委員会」を新設し、少数派の権利の拡大、雇用推進など図るべき。障害者雇用が一定の割合で義務付けられているが、岩手県立病院は未達成。団交で追及したが「障害のある看護師は雇用できない」と回答。早速「障害のある看護師等の正規

採用に関する要求書」を提出した。働く権利が擁護されてこそ働きやすい職場になる。

千葉県医労連

鈴木郁雄代議員



メンタルヘルスが衛生委員会の調査審議事項になっており、職場では新人向けにセルフケア講習など行っている。職場のハラスメント調査では、4人に1人が受けていると回答。看護職場では、師長からの言葉がキツイとわかった。言う側に問題を気づかせる必要がある、アンガーマネジメントの学習している。難しい問題だが、労働組合としての取り組みは必要。労安委員会の設置を要望したい。

全労災

横山智子代議員



「調理師増やせ」の職場の声は切迫している。全労災全体で直営は4病院のみ。正規職員は少なく委託で補っている。患者にとって病院給食は治療そのもので唯一の癒し。それを提供する調理師は医療職。看護師には配置基準があるが、調理師にはない。せめて患者35・40人に1人の調理師基準が必要。低すぎる賃金、長時間労働は正し、直接雇用で安全安心の病院給食が提供できるよう要求実現に向けて頑張りたい。

長時間労働・夜勤交替制労働の規制を 『夜勤改善署名』で 改善せまろう

岩手医労連

葛浦沢実代議員



岩手医大の院内保育所は教職員組合が大学から委託うけ経営。0歳〜就学前まで80名が在園。新築移転にあたり職場保育所設置アンケートを実施。

夜勤改善・大幅増員の取り組み

東京医労連

高松栄次郎代議員



東京医労連看護闘争委員会、署名の取り組みや結果強化について合宿で討議してきた。討議で決めた委員会の定例化、宣伝行動と「しゃべり場」の活動、ニュース発行の強化に1年間取り組み、課題



9割が職場保育所は必要と回答。赤字回避のため人件費で調整するしかなく20人中15人が非常勤職員。補助金の拡充だけでなく、思い切った公費の投入による保育者の給与アップが必要。運動の重点とし、認可・認可外共同での大きな闘いをするべき。情報提供もお願いしたい。

滋賀県医労連

宮武真知子代議員



看護現場でも、医療の儲け・合理化が優先され、診療報酬が目的の看護になっていく。今の政治こそ悪いと、署名に頑張る人は職場で激減している。「目的をもった」看護要求実現全国交流集会の開催を提起したい。医労連の運動を下支えしている地方の看護闘争は停滞状況にある。現場の看護師が「看護の質」と制度の関連を明らかにし、組合活動や看護に目覚める思いをもつて団結して継続することから大きなうねりになる。この原点に戻った運動の展開が求められている。

和歌山県医労連

佐藤英昭代議員



看護職場で大きな変化がおこっている。診療報酬改定による加算7項目により、12時間夜勤や、ロング日勤をやっていたという動きが出ている。応援勤務が日常的にある。OPE番も救急対応忙しく、呼び出しが当たり前。待機勤務で拘束され、36協定超えても当局は平気な状況。レント

岡山県医労連

山本鈴子代議員



岡山は署名達成率3年連続全国1位を目指し、1人1100筆を目標に取り組んだ。目

く変わると、今までやってきたことが無になるのではないかと懸念している。意見書があがったところに返答していく。日本医労連であがった意見書を冊子にしてほしい。大きな目標になる。

新潟県医労連

羽賀泰子代議員



署名1人10筆目標で取り組んだ。新潟県医労連では、当初は事務長室から抵抗があつたが、ゼロ筆支部・部署なしを達成した。今後も、署名の意義と必要性を訴え1人15筆を掲げ頑張る。戦争法署名も最重要署名と位置づけ取り組み。参院選も野党統一候補の勝利のため、病院・診療所・各支部、白衣でのスタンディングを労使共同で数回行なつた。今後も憲法改悪と、戦争する国への暴走阻止し、単組の先頭に立つてたかう。

愛媛県医労連

高橋徹代議員



署名の請願項目変えないでほしい。署名の本質は、地域住民や患者さんたちが喜んで「私たちがやるべき」と思える署名にしていくべき。全教の署名はお母さんたちが頑張っている。署名の内容が大きい

大分県医労連

美馬恭子代議員



診療報酬改定で急性期医療に重きが置かれ、多くの人が在宅療養を選択する必要がある。地域で活性化し、看取る介護と聞かえはいいが、その土台作りは遅々として進んでいない。介護離職どころか姥捨て山の復活を思わせる現状。慢性期・リハビリ期の手厚い診療報酬改定こそが離職



防止の特効薬。動き続けられる環境づくり、誰に対しても優しい職場づくりがひいては療養環境を整える大きな要素になる。笑顔の守れる職場づくりのためもう少しだけ頑張る。

北海道医労連

鈴木緑代議員



秋田県医労連

泉谷みどり代議員



昨年の戦争法強行成立を受け、今年のナースウェーブは従軍看護師学習会を企画した。「看護師は患者に一生懸命だが、もっと社会に目を向けてほしい」との話し、その通りだという感想が多く寄せられた。秋には「看護座談会・交流会」を計画し、それに先駆けて病院状況調査を実施し、持ち寄ろうと計画。愚痴が要求になっていけばいいと

神奈川県医労連

岡部真聖子代議員



准看護師制度の廃止・看護制度一本化の課題では、県医労連は、「移行教育をすすめる仲間の会」と共に運動してきた。今年の准看護師アンケートでは、教育・研修の不足、看護師との賃金格差、キャリアアップ形成システムからの除外が不満として挙げられた。通信教育制度においても、改善すべきことが多い。医労連として、全国規模のアンケートや、黒書の中に位置づけるなど、大きく旗を振って頂きたい。

京都医労連

塩見正代議員



診療報酬・介護報酬の18年同時改定は、単純な引き下げにはならない。医療提供体制改革の柱が地域医療構想。看護現場は更に超高速回転になるだろう。人員抑制機能が働く事になり、経営者は賃金上昇が必要ないと考える方向にも動くだろう。地域医療構想の問題を明らかにし、地域を巻き込む事が医療産別は必要である。京都でも運動学習宣伝等の議論を始めている。全国のみならず一緒に頑張りたい。

介護要求実現の取り組み

石川県医労連

嵯峨猛代議員



介護の処遇改善、県内720事業所に署名と賛同願いを送り、97事業所から返送。今後も事業所との共同強めたい。議会請願では、6月には議会が採択された。金沢市議会では夜勤改善と介護の処遇改善が一緒になったものが採択された。16春闘では、4年ぶりに復活した田中町温泉ケアセンター労組がアンケートに取り組みなど産別に結果した。あと10名で過半数。田中町の再開で介護部門での交流も取り組まれた。共済も三冠めざし奮闘する。

北海道

吉田岳彦代議員



介護制度改悪反対・介護職員の処遇改善・報酬引き上げでは、キャリアバンク行動の強化が必要。自治体決議が取れると、それを後ろ盾に、介護事業所の訪問が行ないやすい。2018年度を見据えて2年間、12月議会も視野に入れた提起をお願いしたい。全労連の「介護給がかり運動」は、未組織の組合からの相談もある。重要。安売法廃止を目指す取り組みは、医療社会保障の切り捨てを許さない世論の合流が必要。労働組合はもっとやれると思う。

新潟県医労連

吉田美里代議員



佐賀県医労連

稲富静男代議員



全日赤

五十嵐真理子代議員



滋賀県医労連

坂田賢治代議員



岐阜県医労連

廣瀬政美代議員



高知県医労連

武樋匡英代議員



来、重要である。争議では、「渡利裁判」について、この間の支援に感謝したい。一審の判決は不当であり、本人も控訴してたたかう予定なので、引き続き支援をお願いしたい。

損害賠償請求二審の仙台高裁秋田支部の勝利判決が確定した。弁護士は「労働組合が市との交渉記録を細かく記録し、それが証拠となって逆転勝利した。組合が何を果たすべきか大きな教訓になった。

全国に教訓を届けたい」と総括。この間の絶大な支援に感謝している。地域医療構想は、雇用の喪失、医療提供体制の崩壊となる。県社保協地域医療構想部会と学習を継続し、県への要請や懇談をしたい。

新潟では、介護現場の課題を前進させたいと言う思いから、介護対策委員会を設立した。介護現場では、職員が定着せず、未経験者への教育困難、人員不足で公休すら消化出来ないなど、課題が山積している。このことを共有し、動き続ける為に医労連へ結集し、集会や行動に積極的に参加したい。他県の取り組みも参考にし、介護で働く職員が元気で明るく笑顔で質の高いケアが提供出来る職場作りを目指したい。

社保協と共同で、介護事業所アンケートを実施。結果、23%の人から「組合加入希望」の回答有。全国の介護職員の平均賃金より更に4万円低い佐賀では、8割の人が「やりがいがある」と思っている。4割の人は「辞めたい」と思っている。自治体キヤラバンでは、20自治体全てを訪問。施設の存続・労働環境の改善にむけて、独自の対応も要請した。組織拡大は、元組員の協力を得て7名加入。介護の組織化を進めていきたい。

全日赤は、医労連産別統一行動日に合わせ、組織拡大(わくわくの日)を設定。奮闘する仲間をガンバルマンと位置づけ、情報をメールで共有。統一ストライキでの、取り組みは、互いの単組が奮闘する相乗効果も出た。19年迄に、年間500名の組織拡大をめざす。新歓はこれ迄の経過から丁寧な対応に努めた。熊本日赤での残業未払いについては、地域労連・県医労連・医労連の協力を得、個人加盟にも繋がった。県医労連に結集しV時回復を目指します。

4年前に専従確保の為、100名の登録増を確認したが、逆に同数の減となった。宮武委員長がパート専従となったが、新3ヶ年計画をやりきらないと専従未配置となる。気を引き締めて取り組みたい。この間、四役中心に「みんなで取り組む」活動を実践。不当労働行為を許さない闘いや、マタハラで闘い組合員が増えているが、未組織の組織化が出来ていない。医労連本部や全国組合本部にも組織増を目指して協力を要請したい。

県労連と共同で、介護総がかりに力を入れ、介護労働者実態アンケートを実施。6割の人が組合や共済に興味があると答えている。この回答を基に、オルグ日を設定し、県労連と回っている。頻繁にオルグをするのは容易でないが、組織拡大の為に優先的に動いている。今回、介護セミナー開催に向け実行委員会を設置。組織拡大に繋がる可能性があれば、個人加盟の加入用紙を名刺サイズにし、持ち歩いている。やれることはいっぱいあるので、楽しみながら、がんばっていきたい。

組織拡大・強化には、組織作り、人作りが必要。労働組合の意義は分かっているけど、自身が拡大するという主体者になりきれない状況も聞く。組合運営の上で、大事なものは労働組合法や規約だが、規約についての理解と内容の不足がわかってきた。日常活動には基礎づくりが重要であり、新組合では、学習と時間をかけ納得と理解をしながらすすめている。学習会を積極的に開催し、活動地盤を固め、組合加入を勧める拡大推進者を配置できるようにしたい。

書記長が不在の中、中央委員会に向けての準備を開始。委員長や執行委員から「大変だけど協力し合って乗り切ろう」と意思統一し進めるも、諸般の事情で委員長、執行委員の不在を余儀なくされた。中央委員会は、日本医労連の協力を得て準備を進め当日に臨んだ。寒波の影響で困難もあったが、本部中執の協力の下、無事終了することが出来た。春闘を闘う事が出来感謝している。

青年協は「遊び・学ぶ・アクトする」をスローガンに要求実現の為、取り組みを進め、昨年の全国アクトも大成功した。本年度はブロックアクトに向け準備を行なっている。この間、憲法9条にカンパイ行動、戦争法・大幅増員等の署名活動、ハラスメントアンケートの実施。調査や会議では、次世代育成の悩みや、組織立ち上げの困難さ、企画に集まらない等切実な悩みもある。

女性協は、喋れば食べれば学び行動すればのサンパと、諸権利を知って、知らせて、職場を変えようの3Cをモットーに楽しく運動を広げようと活動している。全労連の実態調査では、未だに医療・介護の現場は、過酷な職場環境と、母性が守られていない実態が明らかになった。厚労省交渉では、「母性保護と両立支援」の拡充を求め職場の環境整備を要請した。増員闘争も併せて更に運動を進めていく。今年のサンパは富山・川柳も募集するので奮って応募、参加して頂きたい。

『青年・女性分野の取り組み』

り、協力を頂きたい。日本医労連の未来を担える青年組織に取り組み。

女性協

保元里美代議員



青年協

石川奈緒美代議員



女性協は、喋れば食べれば学び行動すればのサンパと、諸権利を知って、知らせて、職場を変えようの3Cをモットーに楽しく運動を広げようと活動している。全労連の実態調査では、未だに医療・介護の現場は、過酷な職場環境と、母性が守られていない実態が明らかになった。厚労省交渉では、「母性保護と両立支援」の拡充を求め職場の環境整備を要請した。増員闘争も併せて更に運動を進めていく。今年のサンパは富山・川柳も募集するので奮って応募、参加して頂きたい。

福岡県医労連

日高琢二代議員



秋田県医労連

松坂金浩代議員



米内沢裁判は、5年7ヶ月続いたが、本年、地位確認等

新しくは2つの仲間を迎える事が出来た。そのうち一つは看護学校の職場で組合が結成された。きっかけは中心となった人が医労連経験者だった。教員が労働組合員であることは、学生の頃から労働組合について対話することが出

来、重要である。争議では、「渡利裁判」について、この間の支援に感謝したい。一審の判決は不当であり、本人も控訴してたたかう予定なので、引き続き支援をお願いしたい。

『組織拡大・3ヶ年計画』

愛知県医労連

幸島元彦代議員



全医労

吉崎祥彦代議員



北海道医労連

坂本諭代議員



道医労連は、8年連続増勢を達成した。恵和会では争議をたたかいながら倍化を達成。20年迄の1万人到達目標に向けて、組織拡大の具体化を検討し実践を開始した。個人加盟労組は、未組織職場に組合建設をする足掛かりであり、交流会や医労連での活動への呼びかけを積極的に進めていくこととした。活動は、具体的に地図上で見えるものにしてと準備中。4年後迄に、1.5倍にする事は、容易ではないが、新組合設立が決定した面白い話題もある。積極的な組織拡大を進める。

スト権の確立ができた事で、更に一丸となった。新人拡大では、早々に準備をし、一定成功した。新歓も大事だが、日常的な組織活動が大事であり、要求改善闘争に結合させなければいけない。支部では「夜勤実態」「院内保育所」「退勤時間調査」を通して加入に繋がっている。職場での会話と、要求改善闘争を結びつけなければ、拡大には繋がらない。個別的に援助しながら、来年度も6年連続増勢で迎えたい。



第9次組織拡大強化3ヶ年計画を具体化し

早期に20万医労連を

達成しよう

戦争する国・憲法改悪NO！ 共同を発展させ要求前進

63本の発言(文書発言3含む)で方針を補強していた。参議院選挙では、野党統一候補が、東北では6県中5県で勝利するなど、11の1人区で勝利し、市民と野党の共闘は、「政治は変えられる」という期待が、新しい政治を切り開く可能性と展望を示すものとなっている。鹿児島では、原発停止を掲げた知事が誕生した。北海道、山形、福島、東京山口、鹿児島など、新たな共同を進める中で、これまでつながりのなかった団体・個人にも医労連への理解と協力を広げ、私たちの要求を前進させる土台づくりにつながっていることが豊かに報告された。野党共闘は、戦争法だけでなく格差と貧困の是正や社会保障の充実、働くルールなどにも広がり、医労連の署名の賛同・紹介議員も増えている。分断攻撃も強まるだろうが、共同をさらに発展させ、要求を前進させよう。

参議院選挙で改選勢力が3分の2の議席を占めたことは重大だが、国民は改選に同意したわけではない。職場での戦争法や憲法の学習や対話を強めながら、戦争に反対し医療・介護の充実を求める「労使共同宣言」などの取り組みを進めよう。

現場実態を告発し、医療・介護の改悪から拡充へ転換を迫る

全医労、全厚労、全JCH O労組などから、患者・住民

・労働組合を無視した乱暴な統廃合や売却に對峙する運動が報告された。こうした動きは、今後も強まるとみられる。すべての労組が地域医療構想に関する病院への申し入れをやる。北海道から介護キャラパンの成功、京都から地域医療構想についての補強、熊本から震災で浮き彫りになっ

発言を受けて署名を全国で取り組むこととしたい。

人間らしく働ける賃金・労働条件の実現！新「夜勤交替制労働の改善署名」開始

賃金闘争では、広島・京都・埼玉・長野・東京・群馬などから、職場の団結を深め当事者

総括答弁・三浦 宜子書記長

未来を拓く20万医労連の早期建設！

いのちと人権を大切にする医療・介護の実現を！



た人員不足と改善に向けての決意が語られた。いのちもるキャラパン行動を成功させ、「看護・介護労働黒書」の運動でリアルな実態を浮き彫りにして、患者・住民とともに、医療・介護の改悪から拡充へと転換を迫ろう。最高裁に上告してたたかっている兵庫「生存権裁判」について、

が交渉に参加して要求前進、全員のベアにこだわって運動、ブロックで重点組合を設定して成果など貴重な経験が報告された。職場の団結と社会的合意形成で、大幅賃上げを勝ち取ろう。再雇用の処遇改善についても、調査結果も踏まえ取り組みを強化する。「夜勤改善大幅増賃署名」

の3年間の取り組みの中で、国会質疑で大臣答弁を引出し、厚労省の実態調査や診療報酬への反映など前進を図ってきた。この到達点にたつて新たな「夜勤交替制労働の改善署名」で、国会決議を勝ち取り、夜勤交替制労働の具体的な規制の実現につなげよう。この間の議論で、介護の夜勤改善も重点に位置づけようという項目をおこした。介護事業所にも署名を大きく広げよう。2018年に予定される診療報酬・介護報酬ダブル改定やベッド削減が焦点となる新医療計画にむけ、初年度の取り組みを重視し、2年で100万筆を達成しよう。賛同議員が増えた条件も生かし、地元から要請を強めよう。

不払い労働根絶、看護制度一本化、労働安全衛生、LGBTや障害者の権利擁護など、補強やご要望をいただいた。中央執行委員会等で検討・具体化させていただく。

20万医労連の早期達成で要求前進！

10年連続増勢を達成した愛知、職場要求と結合した拡大を進めた全医労、争議をたたかいながら拡大でも前進した北海道、あらゆる行動を拡大に結び付けて取り組む岐阜、規約に基づく運営や自分の言葉で労組を語ることのできる人づくりを重視した高知など、組織拡大・強化にかかわって多くの発言をいただいた。宮城や福岡からは新組合結成の力強い報告をいただいた。未来を担う青年協、楽しく元気の活動を進める女性協からも活動報告いただいた



採択結果

- ◆第1号議案(2016年度運動方針) 反対0・保留0・賛成 全会一致
- ◆第2号議案(第9次3カ年計画) 反対0・保留1・賛成多数
- ◆第3号議案(2016年度予算案) 反対0・保留1・賛成多数
- ◆会計報告・会計監査報告 拍手で承認
- ◆スト権投票 反対3・保留1・賛成176
- ◆役員選挙 立候補者全員が圧倒的多数で信任
- ◆共済事業報告・方針・予算・規約改定・制度改定予備提案 拍手で承認
- ◆共済運営委員 拍手で承認

た。また、運動を支える財政確立についても貴重なご意見をいただいた。組織財政検討委員会設置の検討も含め、丁寧に議論を進めていきたい。

最後に、戦争と社会保障は表裏一体だ。いのちを守る医療・介護福祉労働者として、憲法を改悪し、「戦争する国」にする動きを断固阻止しよう。政府は、医療・介護を成

長産業としているが、もうけの対象にしてはならない。いのちと人権を大切にしたい医療・介護の実現には、労働組合の果たす役割が重要だ。750万の医療・介護・福祉労働者を視野に、20万医労連を早期に達成し、私たちの要求を実現させる展望を自らの手で開こう。

医労連共済

19組織が目標達成

石川民医労 156ヶ月連続拡大



各部門で表彰されたら組織の代表の皆さん



震災カンパ目録贈呈・大分



副賞を手になんかでニコリ



震災カンパ目録贈呈・熊本

定期大会2日目の夕食交流会では医労連共済の目標達成組織の表彰式が行なわれました。

加入目標達成、年間拡大率、拡大率などの表彰組織は85組織ありました。そのうち、個人共済加入目標達成7組織を代表して全医労本部、火災共済加入目標達成4組織を代表して徳島県医労連、自動車共済加入目標達成8組織を代表して福井県医労連の3組織と個人共済156ヶ月連続拡大の石川民医労と27期で唯一組織一律共済に取り組んだにわ保健生協労組の5組織に対して中野委員長から表彰状と副賞(クオカード)が贈呈されました。

その後、80組織については、それぞれ組織名を紹介して表彰状と副賞を加盟組織にお渡ししました。

医労連共済の表彰式に先立つて、熊本地震で全国から寄せられたカンパの贈呈が行なわれました。中野千香子執行委員長から目録を受け取った熊本県医労連・田中直光執行委員長は「まだまだ大変な状況だが、全国からの皆さんに心から感謝している」とお礼を述べられました。



東京・齋藤さんだ

来賓あいさつ

定期大会には3名の来賓の皆さんにご挨拶いただきました。
ありがとうございました。



全労連
小田川義和
議長



福祉保育労
澤村 直
書記長



日本共産党
梅村さえこ
衆議院議員

大会への祝電メッセージ

政党

社会民主党（1政党）

衆議院議員

真島省三（共産）／高橋千鶴子（共産）／大平喜信（共産）／堀内照文（共産）宮本岳志（共産）／畑野君枝（共産）／清水忠史（共産）／赤嶺政賢（共産）田村貴昭（共産）／斉藤藤和子（共産）／畠山和也（共産）／池内さおり（共産）／藤野保史（共産）／もとむら伸子（共産）／塩川鉄也（共産）／宮崎岳志（民進）／小川淳也（民進）／逢坂誠二（民進）／郡 和子（民進）／北神圭朗（民進）／菊田まきこ（民進）／升田世喜男（民進）／馬淵澄夫（民進）／仲里利信（無所属）／山下芳生（共産）（25議員）

参議院議員

紙 智子（共産）／市田忠義（共産）／倉林明子（共産）／吉良よし子（共産）岩渕 友（共産）／小池晃（共産）／桜井 充（民進）／野田国義（民進）糸数慶子（無所属）／平野達男（自民）（10議員）

労働組合

全国印刷出版産業労働組合総連合会／全国検数労働連合／全日本年金者組合／全日本教職員組合／特殊法人等労働組合連絡協議会／日本金属製造情報通信労働組合（JMITU）／日本国家公務員労働組合連合会／郵政産業労働者ユニオン／全労連・全国一般労働組合／全国自動車交通労働組合総連合会／全日本建設交連一般労働組合／全国金融労働組合連合会／全国生協労働組合連合会／日本自治体労働組合総連合／日本民間放送労働組合連合会／全税関労働組合／全労働省労働組合／全経済産業労働組合／全労連公務部会・公務労組連絡会／北海道労働組合総連合／岩手県労働組合連合会／宮城県労働組合総連合／秋田県労働組合総連合／福島県労働組合総連合／栃木県労働組合総連合／千葉県労働組合連合会／神奈川県労働組合総連合／山梨県労働組合総連合／長野県労働組合連合会／静岡県労働組合評議会／愛知県労働組合総連合／滋賀県労働組合総連合／京都地方労働組合総評議会／兵庫県労働組合総連合／奈良県労働組合連合会／島根県労働組合総連合／岡山県労働組合会議／広島県労働組合総連合／香川県労働組合総連合／鹿児島県労働組合総連合／全国労働組合総連合共済会／全日本教職員組合共済会／全国建設関連産業労働組合／国鉄労働組合／全国建設労働組合総連合／全日本港湾労働組合／全日本損害保険労働組合／東京土建一般労働組合／日本新聞労働組合連合／日本乗員組合連絡会議／日本学生支援機構労働組合／航空労組連絡会／全国大学高専教職組合／全農協連／国民春闘共闘委員会／全国建設関連産業労働組合連合会（55団体）

医療関係・民主団体・その他団体

全国保険医団体連合会／全日本民主医療機関連合会／日本医療福祉生活協同組合連合会／新日本医師協会／全国生活と健康を守る会連合会／全国商工団体連合会／原水爆禁止日本協議会／日本原水爆被害者団体協議会／自由法曹団／労働運動総合研究所／公益社団法人日本看護協会／医療法人坂上健友会・大戸診療所／日本国民救援会中央本部／治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部／日本のうたえ全国協議会／きょうされん／働くもののいのちと健康を守る全国セクター／日本高齢者運動連絡会・日本高齢者大会中央実行委員会／農民運動全国連合会／安保破棄中央実行委員会／国民大運動実行委員会／中央社会保障推進協議会／平和・民主・革新の日本をめざす全国の会／国民の食糧と健康を守る運動全国連絡会／新日本婦人の会中央本部／全日本医学生自治会連合／一般社団法人全国労働金庫協会／中央労働金庫／中央労働金庫荒川支店／株式会社さかんし／あかつき印刷株式会社（31法人・団体）

海外

国際労働機関（ILO）／オーストラリア看護師助産師連合（ANMF）／国際看護師協会（ICN）／韓国医療労働組合（KHMU）／全米看護師連合（NNU）／ベトナム保健労働組合（VNUHW）（6団体）

大会宣言

日本医労連は7月25日～27日までの3日間、群馬県安中（あんなか）市にて第66回定期大会を開催し、7全国組合・47都道府県医労連から、代議員184人、傍聴51人、役員あわせて301人が参加しました。20万医労連の早期建設をめざして、すべての組織が奮闘した結果、昨年から1002人の組合員をふやし、組合員数17万5611人・8年連続増勢で大会を迎え、第9次組織拡大3力年計画へ幸先よいスタートを切りました。

私たちはこの1年間、「戦争法廃止・憲法改悪阻止、いのちと平和を守る大運動」を全国で展開し、戦争法廃止への意見広告と署名の推進、白衣行動や県交渉・自治体意見書採択などの大幅増員闘争、生計費原則に基づく賃上げ闘争に奮闘してきました。「戦争法廃止を求める2000万人統一署名」は、わずか8ヶ月間に全体で1350万筆を超え、歴史的な運動となりました。大幅増員闘争では3年間で128万筆の署名を積み上げ、自治体決議は305自治体、紹介議員は113人と飛躍させ、国会での大臣答弁につなげました。4月の診療報酬改定では夜勤改善が一定の評価がされるなど画期的な前進をつくりだしました。

大会では63人の代議員から、戦争法廃止の取り組み、野党統一候補の勝利をめざす政治革新の闘い、地域の医療を守る闘い、被災地から復興と看護師増員の決意、原発ゼロへ川内（せんだい）原発を止める闘い、ストライキを背景にした賃上げや夜勤改善を勝ち取った職場闘争の経験、大幅増員署名の目標達成へ熱意ある取り組み、職場改善に向けた新組合結成など活気あふれる報告が相次ぐ一方、過酷な医療・介護・福祉現場での切実な実態、組合活動の困難さ、そしてそれを克服するための奮闘が同時に語られました。

安倍政権は7月の参議院選挙の結果を受けて、軍事強化と憲法改悪の動きをいっそう強めるとともに、消費税10％への増税延期を口実に、さらなる医療・社会保障の削減に突き進んでいます。看護基準7対1の要件変更や、地域医療構想という名のベッド削減、介護保険の制度改悪は、医療・介護・福祉職場をさらに悪化させ、患者・利用者の医療や介護を受ける権利を奪うものであり、人権の守り手である私たちは許すことはできません。

こうした重大な情勢のもと、この秋から「いのち守る全国キャラバン行動」が提起されました。戦争協力をしない労使共同宣言、医療・介護・福祉の実態を可視化し改善に向けた「看護・介護労働黒書」づくり、夜勤交替制労働の改善を求める新署名を成功させ、戦争法廃止・憲法改悪阻止、医療・社会保障の拡充、安全・安心の医療・介護・福祉を実現する賃金・労働条件改善に全力あげようと決意を固めました。いまこそ「再び白衣を戦場の血で汚（けが）さない」と誓った医療産別として「戦争する国づくり」を進める安倍政権とそれを後押しする勢力と対決し、いのちと暮らしを守るたたかいに全力をあげましょう。

来年は日本医労連結成60周年です。20万医労連の早期建設をめざす第9次組織拡大3力年計画の初年度目標を達成するため、過去最高現勢の突破をめざして、すべての全国組合・県医労連・加盟組合が明日から組織拡大に踏み出しましょう。「医療・介護・福祉労働者の生活を守ること、国民の医療・介護・福祉を守り充実させることを一体のものとして追求する」この日本医労連の基本路線はいっそう輝きを増しています。この基本路線を新たな世代に引き継ぎ、国民のいのちと暮らしを守り、医療・介護・福祉政策に影響力をもつ産別運動を大きく発展させることをここに決意します。

以上、宣言します。

2016年7月27日

日本医療労働組合連合会第66回定期大会

特別決議

平和と社会保障の破壊は許さない、 憲法改悪阻止に全力をあげよう

2016年参議院選挙は、安倍政権が「憲法改正」の争点を隠し通すもとで、自公とその補完勢力が改憲発議を可能とする3分の2の議席数を確保するという結果になった。しかし、共同通信の出口調査では、「憲法改正」反対50.0％、賛成39.8％であり、国民が政権に白紙委任したわけではないことは明白である。安倍首相は信任を得たとして、「憲法審査会において合意をつくる」「自民党の改憲草案をベースに議論」など、改憲に言及した発言を選挙直後から始めている。狙いは、憲法9条を変えて戦争できる国にすること、そのために個人の権利を奪い、国家権力を強めることである。

政権は、選挙後に改憲策動を強めると同時に、国民の声を聴かない暴走も再開した。沖縄では、辺野古新基地建設における代執行訴訟で「和解」後に中断していた工事の「再開」を表明し、東村高江のヘリパッド工事も強行した。また、社会保障大改悪についても、医療・介護・生活保護・年金の各部会で審議を進め、改悪の具体化を急いでいる。社会保障の給付抑制と自己負担増は、国民の生きる権利を奪うものであり、憲法25条にも違反する。私たち日本医労連は、先輩たちの痛苦の経験から「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」をスローガンに、平和と医療・社会保障をまもる取り組みを重視してきた。引き続き、安倍政権の暴走をとめる取り組みを、広く国民とともに強めていく決意である。

戦争法廃止の取り組みの中で培われた日本の平和主義・立憲主義・民主主義をまもるたたかいは、市民と野党の共闘という大きな流れをつくり、日本社会と私たちの運動に希望と展望を生み出した。参議院選挙で発揮されたその力は、現在、熱いたたかいが繰り広げられている東京都知事選挙にも大きな影響を与えている。野党統一候補となった鳥越俊太郎氏は、「東京都から日本中に憲法を守る波を届けたい」「大型公共事業にお金をかける時代は終わった。これからは人にお金をかけ経済を循環させる時代」と、憲法をまもり、社会保障の充実を公約に掲げている。都政を都民に取り戻す絶好のチャンス、首都東京から全国を変える足掛かりとなる重要な選挙である。全国の仲間の奮闘で勝利し、改憲発議阻止と、来るべき衆議院選挙で市民と野党共闘の勝利につなげるために力を発揮しよう。
以上、決議する。

2016年7月27日

日本医療労働組合連合会第66回定期大会

〔日本医労連共済〕 第28期運営委員

役職名	氏名	選出組織及び役職名
運営委員長	中野 千香子	日本医労連中央執行委員長
副委員長	三浦 宣子	日本医労連中央書記長
事務局長	吉村 得王彦	日本医労連書記次長
事務局長次長	瀧川 聡	日本医労連中央執行委員
	内田 博之	日本医労連中央執行委員
運営委員	佐々木 悦子	全医労中央執行委員
	安本 真理子	全厚労書記次長
	河野 昌晃	全日赤書記次長
	金子 昌仁	全JCHO病院労組書記次長
	浅山 麻実	全労災書記次長
	南川 博行	北海道医労連書記次長
	五十嵐 久美子	岩手医労連書記長
	新島 達哉	千葉県医労連書記長
	新喜 倫生	石川県医労連書記次長
	坂田 賢治	滋賀県医労連書記長
	藤本 健	広島県医労連書記長
	高橋 徹	愛媛県医労連書記長
	池田 勝久	鹿児島県医労連書記長
監事	齋藤 康雄	東京医労連書記次長
	丸山 理絵	国共病組書記長
	荒木 友里	新潟県医労連書記次長



大会議長団

大会議長
お疲れ様でした
写真右から
門 泰之さん（関西・兵庫）
衛藤 春香さん（全医労）
森 誠一さん（北海道）



**第66回定期大会役員のみなさん
大変ご苦労様でした**

◎議事運営委員会

山口 銀次郎（全日赤）
岡野 学（全厚労）
浅山 麻実（全労災）
丸山 理絵（国共病組）
小畑 英之（東北・岩手）
柏木 哲哉（関信・神奈川）
大国 圭介（中国・島根）
米沢 哲（中央執行委員）

◎資格審査委員会

金子 昌仁（全JCHO病院労組）
桜井 恭子（公共労）
廣瀬 政美（東海北陸・岐阜）
乾 琢也（四国・徳島）
富島 隆治（九州・鹿児島）
瀧川 聡（中央執行委員）

◎大会宣言起草委員

鎌倉 幸孝（中央副執行委員長）
林 信悟（中央執行委員）
金子 竜太（中央執行委員）

◎大会書記長

森田 進（書記次長）

◎大会書記

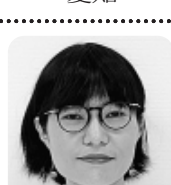
櫻井 順一（書記局員）
寺園 通江（書記局員）

◎選挙管理委員（2015年度）

瀬谷 哲也（全医労）
河野 昌晃（全日赤）
鈴木 寿子（岩手）
山本 善和（山口）

**2016年度 日本医労連
中央執行委員**



 中央副執行委員長 奥山 邦彦 山形	 中央副執行委員長 森田 しのぶ 全日赤	 中央副執行委員長 畑中 剛喜 全厚労	 中央副執行委員長 中丸 登代子 全医労	 中央執行委員長 中野 千香子 東京
 書記次長 温井 伸二 北海道	 書記長 三浦 宜子 全医労	 中央副執行委員長 松本 隆浩 京都	 中央副執行委員長 原 英彦 愛知	 中央副執行委員長 鎌倉 幸孝 長野
 中央執行委員 大島 忠 全JCHO病院労組	 中央執行委員 中村 健一 全日赤	 中央執行委員 松尾 晃 全厚労	 書記次長 吉村 得王彦 大阪	 書記次長 森田 進 東京
 中央副執行委員長 藤田 省吾 埼玉	 中央執行委員 高橋 勝行 福島	 中央執行委員 中野 るみ子 岩手	 中央執行委員 油石 博敬 北海道	 中央執行委員 菅原 忠 全労災
 中央執行委員 湖山 隆司 鳥取	 中央執行委員 林 信悟 愛知	 中央執行委員 米沢 哲 東京	 中央執行委員 青山 光 東京	 中央執行委員 内田 博之 山梨
 中央執行委員 井上 久 書記局	 中央執行委員 寺園 通江 書記局	 中央執行委員 田中 直光 熊本	 中央執行委員 瀧川 聡 福岡	 中央執行委員 金子 竜太 高知
 会計監査委員 加藤 貴 群馬	 会計監査委員 花澤 直樹 全厚労	 会計監査委員 桶谷 努 全医労	 中央執行委員 五十嵐 建一 書記局	 中央執行委員 山口 一秀 書記局

退任役員
ご苦勞さまでした



会計監査委員
小野寺 誠
全厚労



中央執行委員
永島 達哉
千葉

◎2016年度 選挙管理委員

曾我 善雄	(全医労)
河野 昌晃	(全日赤)
上田 潤	(山形県医労連)
山本 善和	(山口県医労連)